



なんでやねん



発行責任者 倉橋 忠

No.6 2

2学期期末テストの結果 を まとめました

期末テストは、本格的に^{ほんかくてき}公民的分野に入^{はじ}って初めてのテストでした。

教科書のページ数にして、約100ページにとどくほどの^{ひろ}広い^{はんい}範囲で、^{じゅん}準備するの^{たいへん}が大変だったと思います。その割^{わり}には、57点に^{ちか}近い^{へいきんてん}平均点だったので、^{ぜんたいてき}全体的な傾向^{けいこう}としては、よく^{けんとう}健闘^{けつ}した結果^かが^{あらわ}現れていると言^よっても^{せいせき}良い成績^{せいせき}でした。

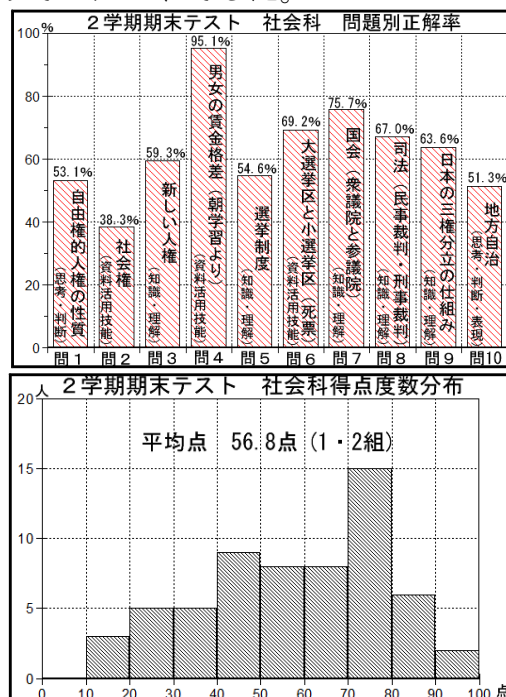
ここで注意しておきたいのは、^{へいきんてん}平均点^{ちか}の^{ひと}近く^{すく}の人は^ど少ない^{すうぶん}と言うことです。度数分布を見ると、^{だい}70点台^{もっと}の人が^{おお}最も^み多くな^{まん}っていて、60点未満の人は、むしろ10点きざみの群(グループ)では少数になります。少しづつ、^{がくりよくさ}学力差^さが^{けいこう}広がり^{しけんはんい}始^{こうはんい}めて^いいる傾向^いにあると言^いえます。試験^{しけん}範囲^{はんい}が^{こうはんい}広範囲^いの

ときにこの傾向は、より顕著に表れます。理解している^{りかい}学習^{がくしゅう}内容^{ないよう}は^{わす}忘れ^{わす}にくいものです。付け焼き刃の「丸暗記」に頼る^{せんもんよう}学習^{がくしゅう}の^ご限界^{せんもんよう}が見えてきます。「専門用語」を^{じっさい}実際の生活^{せいかつ}にあてはめて理解する^{がくしゅうほうほう}学習^{がくしゅう}方法^きに^か切り替^{ていあん}えることを提案します。

次に、問題に別に、今回のテスト結果の特徴を整理しておきましょう。

特に、^{あさがくしゅう}朝学習^{しゅつだい}からの出題^{しゅつだい}(問4)では95%を超える正解率です。これまでも朝学習からの出題には^{こうせいせき}好成績^{しめ}を示していましたが、今回は^{かくべつ}格別^{ふだん}の正解率です。普段の君たちの社会科に対する^{たい}学習^{がくしゅう}姿勢^{しせい}が^{あらわ}現れていると思います。『すごい!』。この問題は、^よグラフ^との読み取りを試す問題でしたが、^{ため}棒グラフ^{ぼう}での出題だったので考えやすかったのだと思います。これが、^{おび}円グラフ^{ひりつ}や^{しめ}帯グラフ^{しめ}の、比率を示すグラフになると正解率は下がる傾向が強くなります。たとえば、問10は、^{ちほうざいせい}地方財政^{とくちょう}の特徴を円グラフで示す問題で、正解率が51.3%に落ち込んでいます。ここに、今後の課題が見えます。

問1で、^{しこうりよく}思考力^{ため}を試す問題として、^{もんだい}自由権的人権^{じゆうけんてきじんけん}の性質を「択一式」の問題を出題しました。記号問題なので簡単だと思^{かんたん}うと、そうは簡単にはいきません。一つ一つ^{せんたくし}の選択肢^{えら}(^{もんだいぶん}選ぶための問題文・説明文)は、正しく理解していないと意味を理解できな



いように記述しているからです。

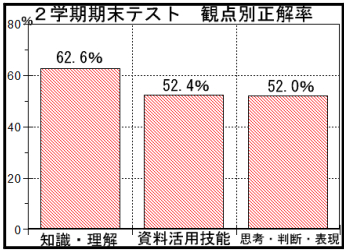
問2は、社会権の内容を、日本国憲法の条文から出題しました。憲法条文に使用されている「言葉」は、非常に重要です。一言一言が国民の人権を保障する内容であり、人権の歴史を表現するものだからです。憲法条文の文言を勝手に変えないことが大人になってからの実際の生活でも、重要な意味を持ちます。文言表現が変われば、似たような言葉でも異なる意味を持つと覚えておいてください。

公民的分野の学習をどうするか

公民的分野の学習では、使用する言葉が専門的で、極端に難解のように思ってしまう学習内容になっています。普段の生活に最も近い話題を扱っているのに、難しく思うのは、専門用語になれていないからだと思います。特に、テスト前になって急にワークや参考書の専門用語だけを覚えようとしても、意味が分からなくなり理解できなくて覚えきれなくて困っている人が多いです。そんなときは、あわてないで、教科書を読み直すことと、授業でまとめたノートをしていねいに読み返してください。一度学習したことを、同じように振り返ることが理解に近づく一歩です。「学問に王道なし」。「急がば回れ」です。今回のような試験範囲が広いときこそ、ていねいな学習方法が効果的だと思います。そのための、普段の「ノート作り」なのです。

「評定」はどうなるか

2学期も終盤に入り、進路選択を目前にして、君たちは通知表の「評定」を気にしていると思います。もう一度、説明しておきましょう(「なんでやねん」No.16参照)。



通知表やいわゆる「内申書」(正確には調査書)で表す評定は5段階評価です。それは観点別評価を総合して判定しています。その一応の目安は、5(Aが3つ以上)、4(Aが2つ以上)、3(Bが3つ以上)、2(Bが1つ以上)、1(Cが4つ)です。しかし、成績内容によっては原則通りにならないこともあります。

社会科では4観点(知識・理解、資料活用技能、思考・判断・表現、関心・意欲・態度)をABC評価します。ABCの基準は県全体で決められています(右表を参照)。

観点別評価の基準	
A	評価項目の正解率が80%以上の場合
B	評価項目の正解率が79%～50%の場合
C	評価項目の正解率が49%以下の場合

今回の期末テストでは、知識・理解、資料活用技能、思考・判断・表現の3観点とも、全体の傾向は「B判定」(評定は3)になります。その意味では、全体的にはまずまずの成績だったと言えるでしょう。これまでは、思考・判断・表現の観点別評価が「C判定」でしたから、少しずつですが成長している様子がうかがえます。